

蘿出雜要訣則知女蘿之名本草所載、萬蘿以下三名出雜要訣也、此女蘿上恐脫蔓字、或源君引本草二名、誤爲出雜要訣也、別錄松蘿生熊耳山川谷松樹上、陶注、松蘿多生雜樹上、而以松上者爲真、小雅頰辨正義引陸氏義疏云、松蘿自蔓松上、生枝正青、萬豆乃古介、依輔仁、又見元輔歌、按萬豆乃古介、謂松苔也、又六帖歌謂萬都乃岐、乃古介、躬恒歌謂之萬都、爾加々禮留古介、本草和名無佐留、乎加世之名、按乎加世麻栳也、以栳所縮之麻、縷爲麻栳、今俗亦有加世絲之名、是物在深山、其狀似麻栳、故云、猿麻栳也、栳訓加世比、古今集物名有左賀利古計、卽此物、故日本紀纂疏云、蘿謂垂苔也、或名幾都禰乃乎賀世、今周防俗呼佐留乃乎賀世、南部俗呼佐留加世、

萬葉にみえたり、

(頭書)

眞淵云、ひかげは深き山などのきにかゝれる、猿をがせてふものなり、萬葉に松のひけとよみしもこの事なるべし、さるを契沖は磐木の下の地などに、長くはふ苔のあるを、それなりと思へるよし、あるものに書きたり、そは誤なり、和名抄、祭祈具、蘿蔓和語云、比加都良、同苔類、蘿日本紀私加、女蘿也、松蘿一名女蘿和名萬豆の古介、一云、佐流乎加世、

宣長云、萬葉十四に、夜麻可都良、加氣麻之波爾母、衣可多伎可氣乎、これに加氣とよめるもひかげなり、二に山藨影爾所見乍とあるも、山かつらを枕言として、影はひかげの意につづけたるを、この十四の歌にて知るべし、

〔重修本草綱目啓蒙〕十六石松正新校 キツ子ノヲガセ正新校 ヒカゲノカヅラ カミダスキ サガリ

ゴケ新古今 ヒカゲ抄 グサ同上 ヤマカヅラ同上 キツ子ノタスキ但州 ヤマウバノタス

キ豫州 シノ子巴土州 キツ子ノケサ 豊州ハイタ 越前サル フガセテング ノタ

ス江戶 キ